

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1970800189		
法人名	社会福祉法人 泉茅会		
事業所名	グループホームめぐみSINCE 2004		
所在地	山梨県甲斐市竜王644-5		
自己評価作成日	平成23年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年1月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当ホームは甲府盆地を見渡す小高い丘陵に建ち、周辺地域は緑あふれる自然に恵まれた環境である。ホームでは畑で野菜等を栽培し、収穫を楽しみにしている。利用者、職員と日々調理などを共にやっている。また近隣に併設施設や医療機関が近くにあり連携を築いている。笑顔で優しく接し、安心した生活をして頂けるよう努めている。利用者のニーズを察知し、最優先にサービスの提供に努めている。利用者の人格を尊重して家庭的な雰囲気与生活して頂けるよう努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

眼下に甲府盆地を見渡せ、四方の山並も望める高台に建っている。同一法人敷地内には介護老人福祉施設・ショートステイ・デイサービスセンター・居宅介護支援事業所がある。中心に広々とした庭と東屋があり、利用者の散歩や楽しみ事に使われている。整備の行き届いた庭園とも言える空間が、ゆったりとした雰囲気を感じさせている。一角には畑もあり、時期には利用者・職員が共に野菜作りを楽しんでいる。職員は利用者の笑顔を大切に、一人ひとりの感じ方を尊重した支援に努め、その人らしい生活を安全に過ごせるよう細やかに配慮している。また、家族との関係性が途絶えることのないよう利用者の思いを察知し、さりげなく働きかけている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームめぐみSINCE2004

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ユニットA)	ユニット名(ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し、周知している。管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を掲示し、周知している。管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月1度の職員会議だけでなく、毎日の職員間の連絡ノートや申し送りの際に確認し合っている。利用者の身体の変化や精神面のフォローなど、必要時に話し合う際も、理念に立ち返り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外出時には地域の方々との交流が持てるよう配慮している。定期的にボランティアの方々にも来て頂き交流も持っている。	散歩など外出時には地域の方々との交流が持てるよう配慮している。定期的にボランティアの方々にも来て頂き交流も持っている。	ほぼ毎日散歩しており、地域の人達とは顔なじみの関係となっている。法人が自治会に加入しており、地域の清掃活動などホームも協力している。幼稚園・小・中学校や高等学校の子供たちとの交流も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の早期発見、対応の仕方など資料をコピーしてお渡ししている。	認知症の早期発見、対応の仕方など資料をコピーしてお渡ししている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、サービスの実際や、取組み状況等について報告や話し合いを行っている。また、実際に行事等への参加をして頂いている。	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、サービスの実際や、取組み状況等について報告や話し合いを行っている。また、実際に行事等への参加をして頂いている。	2か月に1度定期的に行われ、利用者・家族も参加している。ホームの状況を報告したり、地域代表からは地域行事の情報を貰うなど、相互の情報提供の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報交換会などに参加し、意見交換や情報収集を行っている。	情報交換会などに参加し、意見交換や情報収集を行っている。	年に2~3回、市の主催で意見交換会が開催され、その折、ホームの実情や取り組みを伝えていく。また他の事業所の状況も知ることが出来る有意義な会となっている。利用者の個別の問題も、相談するなど積極的に連携を図る努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回身体拘束防止委員会を開催している。身体拘束ゼロへの手引きを各部署に置き、理解に努めている。現在も身体拘束を行わずにケアに取り組んでいる。	月1回身体拘束防止委員会を開催している。身体拘束ゼロへの手引きを各部署に置き、理解に努めている。現在も身体拘束を行わずにケアに取り組んでいる。	法人全体で委員会を組織し、身体拘束について学習している。玄関は夜間のみ施錠し、戸外に出してしまう場合は職員が付き添っている。日々の生活の中でも、行動を抑制するような言葉を使わないよう心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回虐待防止委員会を開催し、在宅、施設での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、虐待防止の徹底に努めている	月1回虐待防止委員会を開催し、在宅、施設での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、虐待防止の徹底に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料等を閲覧できるようにしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料等を閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行っている。利用者やご家族等に不安や疑問点がないか確認を行い、理解・納得の上契約の締結、解約等を行っている。	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行っている。利用者やご家族等に不安や疑問点がないか確認を行い、理解・納得の上契約の締結、解約等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ユニットA)	ユニット名(ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会において意見交換を行い、利用者やご家族の意見を表せる機会を持ち、運営に反映している。	運営推進会議や家族会において意見交換を行い、利用者やご家族の意見を表せる機会を持ち、運営に反映している。	運営推進会議や家族会だけでなく、来訪時に日常の様子を伝えながら、家族が意見・要望を出しやすい関係作りに努めている。居住環境に関する要望が出された際もすぐに対応して改善につなげた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	職員の面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	年2回、運営者・管理職とのヒアリングがあり現場の声を聞いている。また、頻繁にホームを訪れ、現場の把握に努めている。日常的なことは管理者に意見・提案を言える関係が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握に努めている。給与水準、労働時間、やりがいなどをを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握に努めている。給与水準、労働時間、やりがいなどをを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力をを把握し、内部・外部の研修を受ける機会を持てるよう取り組んでいる。	職員個々の能力をを把握し、内部・外部の研修を受ける機会を持てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの研修による受け入れや情報交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。	他施設からの研修による受け入れや情報交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、ご本人の不安や要望に傾聴する。声かけ、コミュニケーションを十分に図り、安心した生活ができ、信頼関係が築けるよう努めている。	アセスメントを行い、ご本人の不安や要望に傾聴する。声かけ、コミュニケーションを十分に図り、安心した生活ができ、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には担当者会議を開催し、アセスメントを行い、ご本人・ご家族の意向や困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けるよう努めている。	入居時には担当者会議を開催し、アセスメントを行い、ご本人・ご家族の意向や困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントと、担当者会議におけるご本人、ご家族の意向に耳を傾け、必要としている支援を見極め、対応に努めている。	十分なアセスメントと、担当者会議におけるご本人、ご家族の意向に耳を傾け、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを職員と一緒に、自己決定や選択など共に暮らす関係に努めている。	できることを職員と一緒に、自己決定や選択など共に暮らす関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ユニットA)	ユニット名(ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族双方の立場を考え、より良い関係が築いていけるよう、職員・家族と共にご本人を支援していけるよう配慮している。	ご本人、ご家族双方の立場を考え、より良い関係が築いていけるよう、職員・家族と共にご本人を支援していけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出・外泊などの機会が持てるよう支援に努めている。	面会、外出・外泊などの機会が持てるよう支援に努めている。	利用者の生活背景から、馴染みの人・馴染みの場を把握し、支援につなげている。特に、家族との関係が途切れることのないよう、電話の介助、面会時の水入らずの時間を作るなど、細やかな支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、性格など把握しながら、日常生活の中で利用者同士が関わり合い、支え合える環境が作れるよう努めている。	利用者同士の関係、性格など把握しながら、日常生活の中で利用者同士が関わり合い、支え合える環境が作れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて、相談や支援に努めている。	契約終了後も、必要に応じて、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のサービス担当者会議で、ご本人・ご家族の希望や意向を聞いて希望に沿う生活をして頂き、随時コミュニケーションをとり意向をくみとる。	初回のサービス担当者会議で、ご本人・ご家族の希望や意向を聞いて希望に沿う生活をして頂き、随時コミュニケーションをとり意向をくみとる。	入居時のアセスメントで、本人・家族の希望や意向を聞き取っている。一人ひとりの思いや意向に、全職員が留意し把握に努めている。何気ない会話や入浴時の会話なども意向を汲み取る機会と捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより生活歴、健康状態、趣味、生活習慣、これまでの生活の過程を把握している。	アセスメントにより生活歴、健康状態、趣味、生活習慣、これまでの生活の過程を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方、心身状態、残存能力等現状の把握に日々努めている。	個々の1日の過ごし方、心身状態、残存能力等現状の把握に日々努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見やアイデアを反映し、現状に応じて介護計画を作成している。	本人、家族、職員の意見やアイデアを反映し、現状に応じて介護計画を作成している。	介護計画は3か月に1度見直しているが、状況の変化に応じてその都度見直している。本人・家族・全職員の意見が反映されたものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録に日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で共有している。介護計画の評価、見直しに際しても活かしている。	個々の生活記録に日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で共有している。介護計画の評価、見直しに際しても活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ユニットA)	ユニット名(ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、ニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。	本人やご家族の状況、ニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、近隣の保育園や小、中、高校生との交流、理美容など豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティア、近隣の保育園や小、中、高校生との交流、理美容など豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は必ず本人・ご家族等の意向を確認し、納得を得たうえでのかかりつけ医を決定している。	受診は必ず本人・ご家族等の意向を確認し、納得を得たうえでのかかりつけ医を決定している。	本人・家族が希望するかかりつけ医である。受診は家族が同伴することが基本だが、都合が悪い場合は職員が受診支援している。医療面の情報交換は口頭だけでなく書類にも残し、必要時は医師に確認するなど確実な支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化など看護職員に相談している。状況により医療機関への連絡、指示をもらい適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	状態の変化など看護職員に相談している。状況により医療機関への連絡、指示をもらい適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院と随時連絡をとりあっている。	入退院時には病院と随時連絡をとりあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族等と検討し、事業所でできることを十分に説明を行っている。方針を共有し、医療関係を相談しながら支援していく。	本人・家族等と検討し、事業所でできることを十分に説明を行っている。方針を共有し、医療関係を相談しながら支援していく。	入居、契約時に家族・本人と話し合い、基本的な方針を確認し合っている。実際に重度化した場合は、医療機関の指示、家族の協力、ホームで出来ることなどを話し合い、方向を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修により緊急時の対応方法について備えている。看護職員により救急法の指導を受けている。	内部研修により緊急時の対応方法について備えている。看護職員により救急法の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を年2回行っている。	災害時の避難訓練を年2回行っている。	年2回の訓練を行っている。夜間の出火を想定してベッドに休んでいる利用者を、職員一人で通報・避難誘導を実際に行うなど、より確実な訓練となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	その人らしさを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう徹底して、支援をしている。これは利用者の自信につながり、生き生きと自分の役割を果たしている姿が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ユニットA)	ユニット名(ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定ができるよう言葉かけ、コミュニケーションを図っている。	希望や自己決定ができるよう言葉かけ、コミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに配慮しながら、日々の生活を送って頂いている。個々の希望など随時確認しながら対応している。	個々のペースに配慮しながら、日々の生活を送って頂いている。個々の希望など随時確認しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の選択、自己決定に心がけ、外出や行事などは特に配慮して対応している。	本人の選択、自己決定に心がけ、外出や行事などは特に配慮して対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を聞き、代替メニューの提供を行っている。利用者と職員と一緒に食事の準備・片づけを行っている。職員も一緒に食事を食べながら対応している。	個々の嗜好を聞き、代替メニューの提供を行っている。利用者と職員と一緒に食事の準備・片づけを行っている。職員も一緒に食事を食べながら対応している。	利用者からの希望を聞き、法人内の管理栄養士が献立を作成している。一人ひとりの力を活かし準備・片付けを、職員・利用者が一緒に行っている。買い物には行っていないが、敷地内の施設へ食材を取りに行くことを皆、楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立にて栄養バランスのとれた食事提供を行っている。食事量、水分量のチェックを行っている。嗜好品や代替メニューなども検討。	栄養士による献立にて栄養バランスのとれた食事提供を行っている。食事量、水分量のチェックを行っている。嗜好品や代替メニューなども検討。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、口腔清潔に努めている。状況に応じて口腔清拭にも対応している。義歯や口腔内の確認を行っている。	毎食後、口腔ケアを実施し、口腔清潔に努めている。状況に応じて口腔清拭にも対応している。義歯や口腔内の確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品を安易に使わず、排泄パターンを把握し対応している。できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄用品を安易に使わず、排泄パターンを把握し対応している。できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。自尊心を傷つけることのないよう、細心の注意を払っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、水分量の確保、適度な運動により便秘予防に努めている。	食物繊維、水分量の確保、適度な運動により便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望や状況に応じて対応している。毎日入浴して頂くなど個々に沿った対応を行っている。	個々の希望や状況に応じて対応している。毎日入浴して頂くなど個々に沿った対応を行っている。	曜日や時間帯を決めておらず、一人ひとりの意向に沿った支援を行っている。入浴を嫌う場合も無理強いせず時間帯を変えたり、声かけのタイミングを変えるなど根気よく対応している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ユニットA)	ユニット名(ユニットB)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、その時の状況に応じてお部屋で休んで頂いたり、安心して眠れるよう支援している。冷暖房や電気毛布なども活用している。不眠の時などは職員とお茶を飲んだり、話をして対応している。	個々の生活習慣、その時の状況に応じてお部屋で休んで頂いたり、安心して眠れるよう支援している。冷暖房や電気毛布なども活用している。不眠の時などは職員とお茶を飲んだり、話をして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が使用している内服についての目的、用法や用量について理解し、服薬の支援に努めている。また症状の変化等への確認に努めている。	個々が使用している内服についての目的、用法や用量について理解し、服薬の支援に努めている。また症状の変化等への確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にアセスメントを行い、個々の生活歴や現在の力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換の支援を行っている。	入居時にアセスメントを行い、個々の生活歴や現在の力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて外出行事などを企画し、ご家族、地域の方の協力を得ながら外出できる機会を多く持てるよう支援している。	季節に応じて外出行事などを企画し、ご家族、地域の方の協力を得ながら外出できる機会を多く持てるよう支援している。	ほぼ毎日、散歩に出ている。また、ゴミ捨てに行ったり、食材を取りに隣接施設に出かけている。散歩時に敷地内の庭園の東屋で一休みし、皆で合唱することもある。季節の行事や誕生会には家族・地域の人が参加・協力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に応じてお金の所持ができ、使えるよう支援している。(荘内行事など買い物やお祭り等)	個々の希望や力に応じてお金の所持ができ、使えるよう支援している。(荘内行事など買い物やお祭り等)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など希望時には自由にかけることができるよう支援している。	電話など希望時には自由にかけることができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱がないよう、生活感・季節感のある飾りをし、居心地良く過ごせるよう配慮している。	不快や混乱がないよう、生活感・季節感のある飾りをし、居心地良く過ごせるよう配慮している。	居間は広々としてコタツが設えてある。テレビの前には座り心地の良いソファが置かれ、利用者同士が会話を楽しんでいる。ソファは多用するので座り心地に配慮し、早めに交換されている。壁に飾られた季節の貼り絵は、協力し合って作ったもので、利用者はどれにも愛着を持っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳の間、こたつを用意し、職員、利用者同士が思い思いに過ごせる居場所を作っている。	ソファ、畳の間、こたつを用意し、職員、利用者同士が思い思いに過ごせる居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた家具やテーブルを持参できるようにし居心地良く、落ち着いた環境で過ごせるよう配慮している。	在宅で使われていた家具やテーブルを持参できるようにし居心地良く、落ち着いた環境で過ごせるよう配慮している。	利用者の好みや、習慣を大切に気持ちよく安らげるよう工夫されている。ベッドはホームで用意しているが、それぞれの身体状況に合わせたものを使用し、じゅうたんやカーペットの材質も厳選するなど、より安全に過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名前の位置や大きさ、のれんの色・柄を変えたり、目印になるものを置き、安全に自立した生活が送れるよう環境作りに配慮している。	部屋の名前の位置や大きさ、のれんの色・柄を変えたり、目印になるものを置き、安全に自立した生活が送れるよう環境作りに配慮している。		